

事業所通信



〒520-0113 大津市坂本6丁目25-30 TEL: 077-579-7121

<http://shigamin.jp/sakamoto/>

お酒を減らせる薬が出ました

所長 今村 浩

お酒が減らせず、やめられず、困っている患者さんと、その家族がたくさんおられます。本人もそうですが、家族の方が深刻かもしれません。

さて、アルコール依存症の治療目標は「断酒」が原則とされてきました。しかし、治療の一つの選択として「減酒」が充分その目標になることがわかってきました。飲み出したら止まらなると考えられてきましたが、ある薬を飲むと、飲みだしても途中で欲しくなくなるのです。

アルコール依存症の人は全国で約107万人とされていますが、治療をしている人はたった5万人にすぎず、他の病気と比べても極端に少ないのが現状です。その原因の一つが、「治療はお酒を完全にやめること」というハードルの高さにあるのかもしれません。

さて、これに対して、2019年3月に発売されたセリンクロ（成分名ナルメフェン）という薬は、飲酒する

前に服用すると脳に働いて飲酒への欲求を下げる作用があります。依存症の患者さんを対象にした試験では、多量飲酒が大幅に減少したと報告がありました。ただし、精神科専門医でないとは処方出来ません。

早速、当院に内科の病気で通院しながらも、アルコールで困っている2人の患者さんにこの薬が登場したとお話したら「試してみたい」と希望され、精神科専門医にご紹介しました。後日そのお二人が内科の治療で当院に診察にこられたとき、「お酒が5分の1くらいで満足できる」「お酒が減っただけ、体が軽くなった」「ちょっと効くみたい」と明るい表情でした。

この薬は、依存症の方でなくても服用できます。アルコールで困っている方は一度ご相談ください。

習慣的な多量飲酒が引き起こす問題ってどんなもの？

健康障害
 ・肝硬変 ・高血圧 ・肺炎
 ・がん（肝臓、食道、大腸、乳がん）
 ・うつ病 ・認知症
 ・末梢神経障害 など

精神的な問題
 ・適量でやめられない
 ・二日酔いで仕事を休む
 ・お酒がないと不安になる など

飲酒量の増加
 ・泥酔
 ・前夜のことが思い出せない（ブラックアウト）

依存症との境界線
 アルコール依存症
 飲酒のコントロール不能

事故死、早死、自殺

お酒の飲みすぎを放っておくと、体と心がむしばまれ、いずれ死に至るケースもあります。
 ご自身の体のことや家族のこと、ここで一度考えてみませんか？

今年度の特定健診は1月末まで。
 受けおられない方は、お申し込みを！